

長屋門

高山長五郎（1830～1886年）は1800年代後期、養蚕学校を建設するため、高山家先祖伝来の家の大部分を取り壊した。高山一家は裕福な侍であった。長屋門は、高山家の遺産として残存する唯一の建築である。

長屋門は1600年代後期の建築と考えられ、現存する日本最古の門衛所の1つとなっている。この建物に関して1891年に描かれた図においては、建造物の詳細を裏付ける資料が見つかる。建物は当時、農具や養蚕道具を保管するために使用されていた。長屋門という名前は、長い住宅（連棟住宅）を意味する長屋と、ゲート（入り口）を意味する門という2つの単語の混成語である。そのため、長屋門は文字通り「長い住宅の門」という意味になる。

2016年、細心の注意を払い、初期の建造物が再建された。すべての木材にラベルが付けられ、取られ、修理され、元通りの場所に戻された。